

2012 年度後期授業アンケートまとめ

1. 2012 年度後期授業アンケート結果の概要

1-1. 2012 年度の実施趣旨と従来との変更点

【授業アンケート実施目的】

- (1)科目担当者が、個別に授業改善を行うための資料および教育自己点検活動のための資料を得る。
- (2)教員相互に関係科目の改善について課題を共有し、改善を行う資料とする。また、アンケート結果を起点として、組織的に教育改善に取り組む機会を提供する。
- (3)授業運営の学生参画の必要性を意識し、学生の学習姿勢・理解度・満足度を知るための資料を得る。また、学生の積極性と責任意識を喚起する機会を提供する。
- (4)学部・学科としてのカリキュラム改善のための資料を得る。
- (5)大学全体として教育力の向上に必要な点検資料を得る。

【2012 年度変更点】

特記事項なし

1-2. 調査対象

今回の授業アンケートの調査対象科目は 2012 年度後期および春期集中、通年開講の全科目を対象とした。アンケート回答者は受講登録をしている学部学生および大学院生とし、原則として特別聴講学生、科目等履修生は対象外としたが、担当教員の判断で特別聴講学生および科目等履修生のデータが一部算入されている場合がある。

1-3. 調査期間

【後 期】2013 年 1 月 7 日(月)～1 月 31 日(水)

【春 期 集 中】2013 年 2 月 4 日(月)～2 月 9 日(金)

- ・アンケートは授業時間を 15 分ほど利用し、学生が選択式の回答と自由記述が可能な時間を保証した。
- ・教員が配布と説明をおこない、その時間内に回収する集合調査法を採用した。
- * 2012 年度後期の回収率は全体で 79.81%となった。(2011 年度後期 76.95%)

1-4. 調査設計

調査項目の基本構造については、前年度と同じで、OMR 用紙には、科目名・クラス、担当者を記入する形式である。授業についての選択項目/16 項目と、授業についての自由記述/4 項目 を用意し、選択項目については、マークシートを採用し、データ処理を実施。自由記述は教学向上を目的に、授業担当者に返却した。

(1) 授業についての選択項目/16 項目

下表の 16 項目について [1: とてもそう思う 2: まあそう思う 3: どちらともいえない 4: あまりそう思わない 5: まったくそう思わない]のうち、もっともよくあてはまると思うもの一つのみマークさせた。質問の意図を明確に理解させるために、各項目に[明瞭]などのようにキーワードを設定した。

【A. 教員の授業方法について】	
①教員は、指示や授業内容の説明を、はっきりと聞き取りやすく行った。	[明瞭]
②教員は、この授業の学習目標をわかりやすく示していた。	[学習目標]
③教員は、十分な準備を行い意欲的に授業を進めた。	[意欲]
④教員は、学生が自主的に質問や意見を述べられるよう配慮していた。	[配慮]
⑤教員は、授業外での学習方法(資料・課題など)を示していた。	[授業外学習]
⑥教員は、授業を妨害する私語等を少なくするよう環境を保っていた。	[私語・環境]

⑦この授業の内容は、将来役に立つものであったと思う。	[将来]
⑧この授業で感じた授業方法の問題点は、授業期間中に改善された。	[改善]
[B. あなたの理解状況について]	
⑨私は、この授業で学んだ内容をよく理解することができた。	[理解]
⑩私は、この授業の内容に興味・関心を持つことができた。	[興味]
⑪私は、この授業から新たな問題意識や知的好奇心を刺激されることが多かった。	[触発]
[C. あなたの授業態度について]	
⑫私は、この授業にまじめに出席した。	[出席]
⑬私は、この授業に関して教員の指示に従い熱心に勉強した。	[学習意欲]
⑭私は、教員からの指示以外に、自主的に学習して取り組んだ。	[自主学習]
[D. 総合・その他]	
⑮この授業は総合的にみて、良い授業だったと思いますか。	[総合]
⑯☆各担当教員の自由設定項目	[自由]

(2) 授業についての自由記述／4項目

上記 16 項目への選択項目以外に、自由記述式で授業について以下の 4 つの質問を設定した。

- ① この授業のどの点がよかったですか。
- ② この授業のどの点がよくなかったですか。
- ③ よくなかった点を改善するためにはどうしたらよいと思いますか。
- ④ その他この授業で感じたことを自由に記入してください。

1-5. 回収・集計方法

(回収) 以下の方法で回収を依頼した。

- ① アンケート用紙の配布は封筒で行う。
- ② 授業内での回収については、基本的に、学生自身がアンケート用紙を封筒へ直接入れるように科目担当者が指示する。その際、回収封筒の場所を指示するか、または教室内に封筒を回す。そのほかクラスサイズが大きい場合、適宜、列の一番後ろの学生が回収を行うなどして、学生が直接封筒へ入れるよう指示する。
- ③ その際、出席者すべて回収が終わるまで教室から出ないよう指示をする。
- ④ 提出については、授業終了後、授業担当者が持参して提出する。

(集計) 回収した封筒について、大学で集約し、処理事業者へ渡す。授業についての選択項目を機械(OMR)で読みとり、読みとり時に[とてもあてはまる]を 5 点、[まあそう思う]を 4 点、[どちらともいえない]を 3 点、[あまりそう思わない]を 2 点、[全くそう思わない]を 1 点に置き換え、各種分析をおこなっている。授業についての自由記述項目については集計や統計処理は一切おこなっていない。集計後、授業担当教員に担当科目のアンケート結果へのコメントや受講者へのメッセージを依頼した。

2. 2012 年度後期授業アンケート結果の特徴と傾向

2-1. 授業形態別傾向分析

2-1-1. 学科・授業形態別「総合」の分布 別紙資料:P1

《全体概要》「講義」「演習」「語学」については、4.0～4.5Pを頂点とし、幅広い山型に分布。
「実習・実技」については、3P～4P台中心に分布。

【講 義】

2P台～5Pまで幅広く分布。2P台のデータが4つ見られるものの、4.0P以上の割合が約6割。

【演 習】

前年度にあった2P台のデータがなくなり、すべて3P以上に分布。4.0P以上の割合が約8割。

【語 学】

前年度にはなかった2P台のデータが3つ見られるものの、約7割が4.0P以上に分布。

【実 習・実 技】

サンプル数が少ないが、約7割が4.0P以上に分布。

2-1-2. 授業形態別集計結果 別紙資料:P1～4

《全体概要》全体的に平均が上昇したことにより、評価も微増

【全 体】(総合平均/4.12P) * 前年度より **0.05P 上昇**(前年度 4.07P)
アンケート全項目のポイントが上昇したことで、全体も上昇

【講 義】(総合平均/4.01P) * 前年度より **0.06P 上昇**(前年度 3.95P)
全項目のポイントが上昇し、総合も上昇。

【演 習】(総合平均/4.25P) * 前年度より **0.03 上昇**(前年度 4.22P)
全項目のポイントが微増し、総合も少し増加。

【語 学】(総合平均/4.12P) * 前年度より **0.01P 上昇**(前年度 4.11P)
「明瞭」「意欲」において、前年度同期よりポイントが僅かに低下したが、その他の項目で微増し、総合もわずかに上昇。

【実 習・実 技】(総合平均/4.45P) * 前年度より **0.12P 上昇**(前年度 4.33P)
全項目でポイントが上昇し、総合も上昇した。

2-2. 学科別傾向分析 別紙資料:P5～10

《全体概要》各学科前年度とほぼ同水準。ただし、2P 台が見られる学科もある

【日本語日本文学科(日本語日本文学コース)](* 前年度 講義 4.1 演習 4.4)
サンプル数が演習・講義とも多くないが、演習、講義ともに平均が 4.0P 以上と高い。
ただし、前年度比ではどちらもポイントが少し低下している。

【日本語日本文学科(書道コース)](* 前年度 講義 4.3 演習 4.8)
サンプル数が少ないが、講義、演習ともに、前年度から少し低下。

【歴史学科】(*前年度 講義 4.1 演習 4.4)

講義の平均は 4.2Pで前年度同期よりわずかに上昇。演習の平均は 4.4P と横ばい。

【文化財学科・歴史遺産学科】(*前年度 講義 3.8 演習 4.4)

講義平均は 3.9Pと、前年度同期より 0.1P上昇。演習は、0.3P減の 4.1Pになっている。
講義・演習ともにすべて 3.5P以上～4.5P以下という高い値である。

【児童教育学科】(*前年度 講義 4.1 演習 4.3)

前年度とほぼ同水準だが、講義で少しポイントが低下した。

【英語コミュニケーション学科】(*前年度 講義 4.3 演習 4.3)

講義・演習ともに前年度同期とほぼ同水準。講義で少しポイントが上昇。

【現代マネジメント学科(現代マネジメントコース)](*前年度 講義 3.9 演習 4.2)

前年度同期より講義は 0.1P上昇し、演習は 0.1P低下。

【現代マネジメント学科(救急救命コース)](*前年度 講義 4.5 演習 4.3)

講義が前年度と同ポイント。演習は 0.2P上昇。どちらも 4P以上に分布している。

【都市環境デザイン学科】(*前年度 講義 3.9 演習 4.3)

前年度と同水準だが、演習は 0.1P低下。演習にあった2P台の科目はなくなったが、
講義で1つ見られる

【看護学科】(*前年度 講義 4.2 演習 4.5)

前年度とほぼ同水準。どちらも 0.1Pずつ上昇した。演習においては、5Pのデータの
個数が最も多くなっている。

【理学療法学科】(*前年度 なし)

データの個数が少ないが、講義・演習すべて 4.0P以上に分布している。

【心理学科】(*前年度 なし)

データの個数は多くないが、講義については2P台のものが1つ見られる。演習については
3P台後半から4P台後半までに分布し、高いポイントとなっている。

2-3. 外部委託科目の結果

2-2-1. 「ベーシックスキル英語」集計結果 別紙資料:P11

① 2012 年度後期における事業者(ECC)と本学教員との比較

全体的にやや事業者派遣教員のポイントが高い。「明瞭」「学習目標」「授業外学習」「将来」の項目において差が見られる

②3年間の傾向比較(ECC)

昨年度と比較すると、全体的にポイントが上昇した。ただし、「自主学习」は、他の項目と比べると、ポイントが少し低めとなっている。

2-2-2. 「ベーシックスキル情報」集計結果 別紙資料:P11

① 2012 年度後期における事業者(ワークアカデミー、富士 FOM)と本学教員との比較

・ワークアカデミー…本学教員のほうが、総合および多くの項目で、少しポイントが高い。

・富士通FOM…事業者派遣教員の方が、ポイントが高くなっている。

富士通FOMは、「明瞭」「学習目標」「意欲」「将来」のポイントがいずれも4.5P以上と高い。

② 3年間の傾向比較(ワークアカデミー、富士通FOM)

- ・ワークアカデミー…大きな変化はない。全体的に前年度同期から少し上昇した。
- ・富士通FOM…前年度同期には全体的にポイントが下がったが、今回は大きく上昇した。「自主学習」も上昇したが、他の項目に比べるとポイントが低めとなっている。

2-4. 「総合」項目と他の項目との相関関係 別紙資料:P12

《全体概要》全体的にみると、「講義」「演習」「実習・実技」の各項目と、総合項目との相関関係が少し弱まった。「語学」については、相関関係が強くなった。「講義」と「語学」において、他項目と比べると「出席」との相関関係が少し低い傾向にある。

【講 義】

前年度とほぼ同水準。全体的に相関関係が弱まった。「出席」「自主学習」との相関が低い。

【演 習】

前年度とほぼ同水準。全体的に相関関係が弱くなった。

【語 学】

全体的に相関関係が高く、前年度との比較でも「出席」「学習意欲」以外のすべての項目で相関関係が強まった。ただし、「出席」の相関は弱い。

【実習・実技】

2011 と比べると、全体的に相関関係が弱まった。
しかし、全体的に高いポイントとなっている。

2-5. 科目・学科・学部別集計分析

2-5-1. 科目・学科・学部別集計 別紙資料:P13-15

《全体概要》

- ・前年度と同水準。ややポイントが上昇(前年度より 0.05P 上昇)。
- ・「改善」「自主学習」は、全体的にポイントが低い傾向にある。

2-5-2. 学科・ゼミ別集計 別紙資料:P16-19

《全体概要》

- ・1～4回生のゼミ合計の総合項目は、すべて4P 台である。1.2回生は同ポイントだが、学年が上がるにつれて、上昇。前年度と比べても、ほぼ同水準である。
- ・「改善」「自主学習」はその他の項目に比してポイントが低い傾向にあるが、学年が上がっていくにつれて、ポイントも上昇。

3. 基本データ

3-1. 回答者のプロフィール

アンケート対象科目の受講登録者総数と、有効回答数および有効回収率は下表のとおりである。

【回収率】 12 後期

全受講登録者	
登録者数	27732
有効回収数	22132
有効回収率	79.81%

(参考:12 前期 76.95% 11 前期 77.85% 10 前期 78.28% 後期 76.39% 09 前期 77.72% 後期 74.89%)

* (有効回答数)=(登録者数)-(欠席者)

* (有効回収率)=(有効回答数)÷(登録者数)

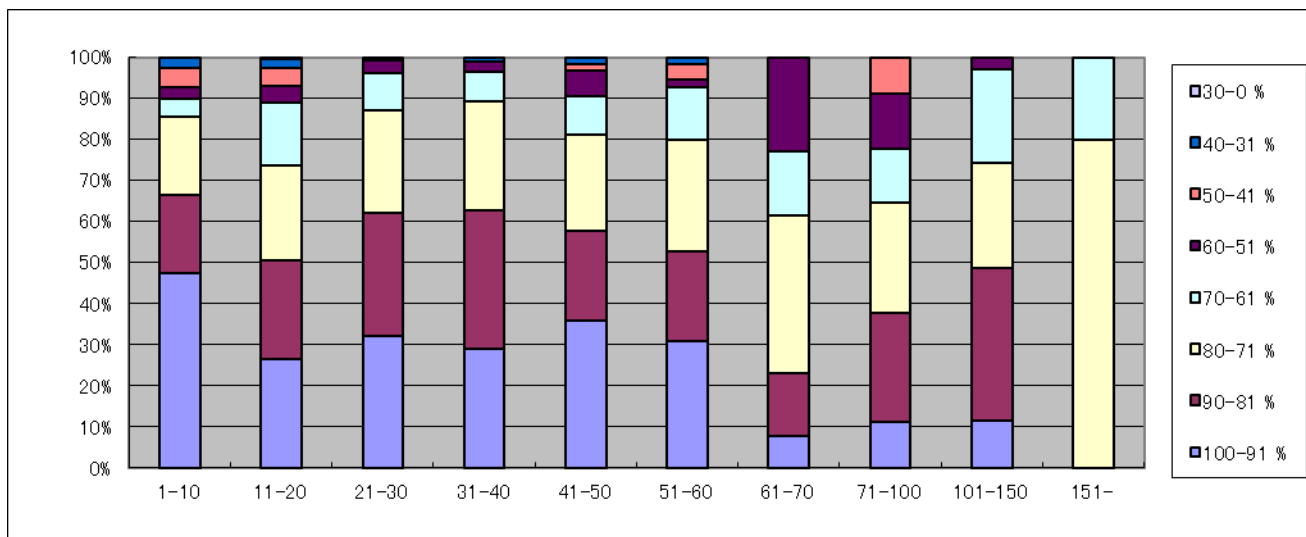
* 2006 年度以降は、以下のように集計方法を改善したため、回収データ中の無効(不明)データはゼロ。

1)読みとり方式を OCR から OMR に変更し読み取り精度を高めた。

2)科目コードと所属を、科目ごとに袋で管理した。

【クラスサイズ別回収率】

回収率	100-91 %	90-81 %	80-71 %	70-61 %	60-51 %	50-41 %	40-31 %	30-0 %	合計
度数									
1-10	52	21	21	5	3	5	3		110
11-20	59	54	51	34	9	10	5	1	223
21-30	50	47	39	14	5	1			156
31-40	24	28	22	6	2		1		83
41-50	23	14	15	6	4	1	1		64
51-60	17	12	15	7	1	2	1		55
61-70	1	2	5	2	3				13
71-100	5	12	12	6	6	4			45
101-150	4	13	9	8	1				35
151-			8	2					10
合計	235	203	197	90	34	23	11	1	794



3-2. 教員による⑩自由設定項目の利用状況

利用率 / 4.5 %

40 科目 / 882 科目 (自由設定項目の利用科目数 / アンケート実施全科目数)

* 12 前期 3.6% 11 前期 2% 後期 3.0% 10 前期 4.8% 後期 3.6% 09 前期 4.0% 後期 2.9%

以上